

『モンゴル研究』 投稿規程・執筆要領

＜投稿規程＞

1. 名称及び発行

本編を『モンゴル研究』(JOURNAL OF MONGOLIAN STUDIES) と称し、原則として毎年1回発行する。

2. 投稿資格

投稿できる者は、原則として、モンゴル研究会会員に限る。ただし、次のいずれかに該当する場合には投稿を認めることがある。

(1) モンゴル研究会の依頼により、モンゴル研究会で講演、発表等を行った非会員。

(2) その他、会員の推薦があつて、編集委員会が適当と認めた者。

3. 投稿内容

モンゴル研究に関する未発表原稿で、原則として研究会の月例会などで報告したもの。その種類は論文、研究ノート、調査報告、翻訳などで、編集委員会が適当と認めたもの。

4. 原稿の分量及び様式

(1) 原則として、原則として、論文は50枚以内(400字詰め原稿用紙換算、図表や注を含む)、研究ノート30枚以内(同)。その他の原稿も50枚を超えない。制限を超える長文原稿は、編集委員会の承認によって受理または分割連載されることがある。欧文・モンゴル文の場合も、これに準じる。

(2) 原稿の様式や提出方法については、執筆要領に準じる。

5. 投稿申し込みと締め切り

投稿を希望する者は、WEB上に公開される編集委員会の指定する投稿申し込み期限までに投稿申込書を提出し、指定された締め切り日までに原稿を提出する。

6. 原稿の提出

印刷された原稿1部と電子ファイル(原則としてMS-WORDによる。ただし注の連番機能などの自動作成処理機能は使用しない)を編集委員会へ提出する。

7. 論文等の審査及び掲載の可否

(1) 編集委員会は、審査の結果、必要ならば原稿の修正を求めることができる。

(2) 編集委員会は、審査の結果等に基づいて掲載の可否を決定する。

8. 校正

審査結果を反映した最終原稿の校正は執筆者自身の責任において行い、編集委員会の指定する書式にそつた完全原稿として指定された期日までに提出する。

9. 掲載の経費

掲載に要する経費は原則として無料とする。

10. 著作権利用の許諾

投稿者は、モンゴル研究会に対し、当該論文に関する著作権の利用につき許諾するものとする。

11. 論文等の電子化及びコンピュータ・ネットワーク上での公開

(1) 論文等は本会WEBサイト上で公開される。

(2) 執筆者が公的機関等のリポジトリに本誌掲載論文等の公開を希望する場合、原則として認められるが、編集委員会にその旨を届けなければならない。

＜執筆要領＞

1. 原稿について

(1) 原稿用紙はA4を使用、1ページ=40字×40行とする。

(2) タイトルの後には執筆者名のみ記し、所属、肩書きなどは一切記入しない。但し海外からの投稿には、末尾に(内蒙古大学)などのような情報をふる場合もある。

(3) 原稿にはタイトルおよび執筆者名の英文表記を添える。

(4) 本文の形式

本文は横書きとする。特に希望のない場合は、章立ての形式を右の通りとする。

| |
|----------------|
| はじめに (序、序文など) |
| I |
| 1. |
| (1) |
| II |
| . |
| . |
| . |
| おわりに (結び、結論など) |

(5) 図表

図表を入れる場合は、図表のタイトルに通し番号(図1、表1等)を付ける。本文中での図表の位置を明示する。

(6) 註・参考文献

1) 註は文末註の形式とする。

2) 参考文献リストの書き方は原則として下記の通りとする。

①日本語文献

論文の場合

著者名(発行年)、「論文名」『掲載雑誌や本の名前』雑誌号数、発行所か出版社名

例) フフバートル(1999)、「『内蒙古』という概念の政治性」『ことばと社会』第1号、三元社

本の場合

著者名(発行年)、『本の名前』発行所か出版社名

例) 坂本是忠(1974)、『辺疆をめぐる中ソ関係史』アジア経済研究所

新聞の場合

『新聞名』(何年—何年)

例) 『朝日新聞』(1995—2001年)

②モンゴル語、ロシア語、英語など欧文献の場合

論文の場合

著者名(発行年)、「論文名」『掲載雑誌や本の名前』掲載号数、発行所か出版社名

本の場合

著者名(発行年)、「本の名前」発行所か出版社名

例) П.Шагдалсүрэн(2000)“Миний мэдэх маршал Х,Чойбалсан”,Улаанбаатар

* [] でくくって翻訳する場合もある。

例) [シャグダルスレン(2000),『私の知るチョイバルサン元師』ウランバートル]

新聞の場合

“新聞名”(何年—何年)

例) “Үнэн” [ウネン モンゴル人民革命党発行紙](1945—1996年)

③中国語の場合

基本的に、日本語文献と同じ。

例) 張大宣(1583)、『外蒙古現代史』第4冊、蘭溪出版社、台湾

(7) 提出された原稿は返却しないものとする。

2. ネイティブ・チェック：母語(第一言語)でない言語で執筆した場合は必ずネイティブ・チェックを受けた上で提出すること。

3. 原稿の提出

印刷された原稿とともに、原稿のファイルをいれたCDを提出する。文書ファイルは原則として、注の連番機能などの自動作成処理機能は使用しないMS-WORD形式とする。埋め込む図表は、原則エクセル形式とする。写真や特殊な図を用いる場合は、原稿とは別に、解像度の高い画像ファイルを添付すること。また、使用ソフトのバージョンも明記する。

モンゴル語や諸外国語、言語学記号等については、印刷原稿上で正しく打ち出されていることを確認し、MS-WORD形式で標準装備されていないフォントについては、フォントを添付すること。